

平成27年度活動報告書(1/1)

学部・委員会名	教職課程
学部長・委員長等氏名	課程主任 額田 恭郎
担当所管	教職学情課
テーマ	教員を目指す学生への指導強化

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

教職課程は、各学科で学んだ専門的知識と技術を持ち、地域、社会に貢献し、活躍できる中学校・高等学校の教員養成を行う。

本課程の教育学分野に属する研究室は、教育学研究室、教育心理学研究室、理科教育研究室、農業科教育研究室、技術科教育研究室があり、各研究室の教員が、幅広い知識と実践的指導力をもつ各教科の教員養成にあたる。

また、教員採用試験対策講座により、実践的な指導を行う。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

（1）専門的・実践的指導力を有する教員の養成

一種教員免許状取得に関する教職及び教科に関する授業をはじめ、教育実習前の教育実習指導や、教職課程での学びの集大成としての教職実践演習を行い、学生が教師となる前の事前指導を行う。

（2）教員採用試験対策講座

外部講師（教育委員会採用担当経験者）、教職課程教員及び委託業者講師による授業や面接指導により、現役合格者の増加を目指し、学生への支援を行う。

（3）教員を目指す学生指導

教職開講科目以外に、学生が学びを深めたい専門教科、教職教養に関し指導を行う。またボランティア活動への推進を行い、学生のうちから教育現場を経験する。

3. 達成度を判断するための指標

- ・教職課程就職状況
- ・教員採用試験対策講座受講者数

4. 成果・評価

■成果

- ・教職課程就職状況（平成23年度～平成27年度）
- ・教員採用試験対策講座受講者数

■評価（5～1で記載してください）

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた

5. 課題及び改善事項
・教職課程開講科目内容の改善。 ・各研究室教員による学生指導（進路相談も含む）の充実。
6. 平成 28 年度への継続の有無
継続有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (1/1)

学部・委員会名	教職・学術情報課程
学部長・委員長等氏名	課程主任 額田 恭郎
担当所管	教職学情課
テーマ	学芸員養成・司書養成

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

学術情報課程

日本国内の学芸員・司書養成大学の殆どが人文・社会科学系の大学である。本課程は、東京農業大学に設置されている特徴を生かし、数少ない理系の学芸員・司書の教育を目標とする（ディプロマポリシー）。

- ① 博物館・図書館基本的な知識の修得
- ② 研究活動や情報化社会で必要とされる情報活用能力の養成。
- ③ 企画立案等の策定ができる人材の養成
- ④ 博物館・図書館とその周辺産業やそれらに従事する卒業生との緊密な連携の推進

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

学術情報課程

本課程のカリキュラムポリシーは、博物館法・図書館法に規定されている法令科目に則り教育を実施することにある。但し、理系大学に設置されている利点を生かした教育も併せて実施する。

- ① 実習・演習を通じて個々の学生にきめ細やかな指導を実施する。
- ② 情報提供機関やネットワーク上の情報収集・加工・管理を学び、各学科における円滑なレポート・卒業論文作成に寄与する。
- ③ 展示計画の企画により、博物館における情報提供の重要性について学ぶとともに企画立案能力を養う。併設博物館（食と農の博物館等）と連携した教育を実施する。

博物館・図書館および周辺産業と連携し、学生の就職活動支援を実施する。また、卒業生とも連携し、ネットワークを形成させる。

3. 達成度を判断するための指標

学術情報課程

- ② 学生が実施する授業評価と派遣先実習館の所見などにより評価を行う。
- ② 情報検索技術者検定3級（旧情報検索基礎能力試験 情報科学技術協会）の合格者数の向上、研究情報の円滑な収集ができるように教育支援を進める。
- ③ 自然科学系博物館、植物園、動物園、図書館等の実習学生の派遣を積極的に行い、就職に結びつく情報を収集する。また、ニュースレターを発刊し、関係機関に配布する。
- ④ 卒業生との交流を図るため、OB会を開催させる。

4. 成果・評価

■成果

実習・演習の実施にあたり、個別面接を実施することで、学生の要求に細やかに対応した。派遣先の実習館でも、おおむね実習所見が高く評価されていた。

就職については、個々の学生指導、ニュースレター、課程リーフレットの作成と関連機関への配布により、就職斡旋にも結びつけることができた。また、OB 会の開催により、就職や関連業界の情報収集ができた。

学芸員・司書以外の資格として、情報検索技術者検定 3 級（旧情報検索基礎能力試験）試験への挑戦をさせ、昨年度よりも多い 5 名を合格させることができた。

■評価（5～1 で記載してください）

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

5. 課題及び改善事項

履修者数の増加により、個別の指導に多くの時間を費やすため、円滑な授業計画の立案が必要となる。そのために、専任教員、非常勤講師との協力体制の強化をはかる。

6. 平成 28 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。